

台湾、中国・福建省の沖合にある金門で国籍不明の民用ドローンを撃墜

2022年9月1日（木） 17時34分



中国の民用ドローン Jason Lee - REUTERS

台湾の国防部（国防省）は1日、中国・福建省のすぐ沖合にある金門群島の空域に国籍不明の民用無人機（ドローン）が侵入したため、撃墜したと発表した。防衛区域の安全を維持するため、調査と監視を継続するとした。

台湾を自国の一部と見なす中国は、ペロシ米下院議長の台湾訪問に反発し先月初めから台湾周辺で軍事演習を実施している。

最近は、中国本土沿岸の台湾側の島周辺に中国の無人機が飛来する事例が増えている。

広告



金門防衛司令部によると、無人機は正午（日本時間午後1時）過ぎに獅島上空の制限空域に入っ
た。獅島駐留軍が警告を発したものの反応がなかったため撃墜したと説明した。残骸は海に落下し
たとしている。

蔡英文総統は先月30日に、台湾は「中国の挑発行為」に自制を示すものの、必要ならば「強力な対
抗措置」を取ることできると表明。その日に台湾軍は台湾領の島付近を旋回していた中国の無人
機に初の威嚇射撃をしたと発表した。

台湾総統府によると、蔡総統は1日、軍に対し、中国は台湾を威嚇する目的で無人機の侵入飛行、
その他「グレーゾーン」戦術を使い続けていると訓示した。また、台湾は自ら紛争を引き起こすこ
とはしないが、対抗措置を取らないという意味ではないと再度強調したという。

[ロイター]
